



ロウバイ

136 編には「感謝の賛歌」以外のタイトルは考えられません。26 節からなる賛歌ですが、各節で「～の主、～の神、～の方に感謝せよ」と歌い出し、それぞれ、それに呼応して、**慈しみはとこしえに** と締めくくりながら、歌っています。形式的には、一行ごとに、完結させながら、天地創造の初めから、出エジプト、カナン定住に至るまでの、民の歴史を語り伝える、叙事詩の趣があります。135 編で、祭司たちが「ハレルヤ」と賛美した歴史物語を、音楽的感性を漲らせて、優美に、リズムカルに歌った詩編のように思われます。詠唱者たちの姿、合唱隊などのハーモニーの響きを思い描きながら読むことができます。

民がほめたたえる神の姿が歌われていますが、それぞれ関連毎にまとめてみました。

① 唯一の最高神	恵み深い主に(1) 神の中の神に(2) 主の中の主に(3) 天にいます神に(26)
② 知恵と力の創造主	驚くべき大きな御業を行う方に(4) 英知をもって天を造った方に(5) 大地を水の上に広げた方に(6) 大きな光を造った方に(7)
③ 時の支配者	昼をつかさどる太陽を造った方に(8) 夜をつかさどる月と星を造った方に(9)
④ 権力と対峙する主	エジプトの初子を討った方に(10) イスラエルをそこから導き出した方に(11) 力強い手と腕を伸ばして導き出した方に(12)
⑤ 奇跡をもって導く主	葦の海を二つに分けた方に(13) イスラエルにその中を通らせた方に(14) ファラオとその軍勢を／葦の海に投げ込んだ方に(15)
⑥ 試練を与える主	イスラエルの民に荒れ野を行かせた方に(16)
⑦ 勝利を与える主	強大な王たちを討った方に(17) 力ある王たちを滅ぼした方に(18) アモリ人の王シホン／バシヤンの王オグを滅ぼした方に(19 20)
⑧ 嗣業を与える主	彼らの土地を嗣業として与えた方に(21) 僕イスラエルの嗣業とした方に(22)
⑨ 弱者の守護神	低くされたわたしたちを／御心に留めた方に(23) 敵からわたしたちを奪い返した方に(24) すべて肉なるものに糧を与える方に(25)
感謝せよ。慈しみはとこしえに。	

慈しみはとこしえに は、His love is eternal.(TEV) と英訳されています。使徒パウロの言葉にも、**愛は決して滅びない。**(コリント I 13:8) 英訳: Love is eternal. があります。旧約時代には、神と民との契約による愛の形ですが、主イエスは無償で独り子を世に与えられる父なる神の愛を示されました。

『讚美歌 21』では、163「み恵み深い主に」 [21-163 \(rgr.jp\)](http://21-163.rgr.jp) をこの詩編の讚美歌としています。歌詞は英国の詩人ジョン・ミルトン(1608-1674)が 15 歳の時に 136 編をパラフレーズしたものとこのことです。400 年も歌い継がれています。ジュネーブ詩編歌はピオラ・ダ・ガンバの軽やかな演奏です。

https://www.youtube.com/watch?v=vw9CsuAca_A&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=136